

ラオス国立競技場内武道センターで、ラオス・ジュニアナショナルチーム男女約30名が参加して講習会が行われた



## ラオス・ナショナルチームへの柔道講習会

報告者／藤猪耕大（WPJ事務局）

2012年8月17日から21日の5日間、ラオスの首都ピエンチャン市にある、日本の政府開発援助（ODA）によって建設されたラオス国立競技場内にある武道センターで、WPJ会員による柔道講習会が行われた。

今回、ピエンチャン柔道クラブ道場に在籍するラオス・ジュニアナショナルチーム男女約30名と、ナショナルチームの指導者であるJICAシニア海外ボランティアの菊池正敏氏と熊井憲治氏も参加されました。

日本から、藤猪省太先生（天理大学教授・柔道部部长）、河原月夫先生（警察庁中部管区警察学校教授）、衛藤啓二先生（衛藤道場館長）、深井茂和先生（愛知県警）、藤猪耕大（あい鍼灸整骨院副院長）の5名が指導にあたりました。

講習会では各先生それぞれが、独自の柔道理論をもとに、以下のような技術指導をされました。

藤猪省太先生：組み手や技を掛ける際の視線の方向や、打ち込みを速く入るためには戻る動作を速くしなければならないこと、足さばきで相手の動作を止める方法、試合での様々な状況を踏まえた体さばきの方法など実践的な技術指導をされました。

河原月夫先生：大外刈りと内股の『崩し』『つくり』『掛け』などの成り立ちやバランスといった基本をわかりやすくていねいに説明されました。

衛藤啓二先生：大内刈りを中心にした足技からの連絡技や連携などの実践的な技術指導をされました。

深井茂和先生：立ち技から寝技への移行の仕方や実戦における絞め技、関節技の攻め方などの技術指導をされました。特に絞め技については、初めて見る技に驚いた参加者も多く見られました。

今回の講習会は連日3時間程行われ、ラオス・ナショナルチームの選手たちも日本から指導にあたった先生方の指

導を受け、熱心に取り組んでいたのが印象的でした。

最後に、リサイクル道衣の贈呈式が8月17日に同競技場内で行われ、ラオスオリンピック委員会に藤猪WPJ代表より手渡されました。今回の国際交流を通して、参加されたラオス・ジュニアナショナルチームの方々と、互いに将来への架け橋として友好関係の礎を築くことができたと確信しています。

今回生まれた友好の芽が、将来大きく育ち相互理解が更に深まることを心から願ってやみません。



大外刈りの基本を解説する河原先生



講習会で指導した藤猪耕、江藤、菊池、藤猪省、熊井の先生方



実践的な技術指導を行った藤猪省太先生



絞め技や関節技を指導した深井先生